講演会報告：「動機づけ面接」講演

令和元年度も講師：北田雅子先生・座長：笠原諭先生による「動機づけ面接講演」を仙台にて開催致しました。動機づけ面接（MI）は、アルコール依存症の治療を専門とする行動療法家であるミラー博士とロルニック博士によって構築された面談スタイルで、飲酒に問題を抱える来談者への面接技法を研究するプロセスにおいて、治療成績の良かった治療者の面談スタイルを実証的に解析することから体系化されたものです。来談者自らが行動を変えたいと思う動機を引き出し、強化することによって機能します。今回の講演会では特に、面接者は来談者の両価性（変わりたいけど、このままでいたい）を解消し、来談者が本来持っている内的動機を強め、引き出し、変化の行動を選ぶように援助するための手法を重点的にご指導頂きました。

慢性疼痛の患者さんも、休職や家族の過保護、鎮痛薬に依存しがちで、「治りたい。でも治るのも大変だ…」という状況に置かれやすく、医療者の指導に対して否認や抵抗を示すことが少なくないため、この動機づけ面接による関わりが重要であると国際的にも認識されています。しかし、わが国において慢性疼痛における動機づけ面接の重要性は、まだまだ十分に認識されていないのが現状です。慢性疼痛診療体制の構築のためにも、これらの知識や技術の習得は有効であると思われます。

講師：北田雅子先生

座長：笠原諭先生